

# バイオマス粘着剤 -耐熱保護フィルム用-

## <特長> 微～弱粘着 耐熱性

昨今、SDGsの策定などにより国内外を問わず地球温暖化への危機意識や環境配慮への意識が高まる中、弊社でも、環境負荷低減に寄与する取り組みの一つとして、この度、植物由来原料を使用した環境配慮型バイオマス粘着剤を開発いたしました。

開発品名		P-7360A	P-7360B	P-7361A	P-7361B	
バイオマス度		34%	69%	30%	63%	
一般物性	外観	透明液体		淡黄色液体		
	不揮発分(%)	40	40	40	40	
	粘度(mPa・s/25°C)	700	1,800	500	1,100	
	理論Tg(°C)	-65	-65	-40	-50	
	溶剤	酢酸エチル				
粘着特性	硬化剤	種類	コロネートHX			
		硬化剤添加量(有姿)	3.0			
	(1) 初期粘着力(N/25mm)	対 SUS	0.08	0.06	1.4	0.5
		対 ガラス	0.04	0.05	1.4	0.7
	(2) 150°C 1時間後 粘着力(N/25mm)	対 SUS	0.20	0.23	3.0	1.8
		被着体汚染 / 上昇率	無 / 250%	無 / 383%	無 / 219%	無 / 332%
		対ガラス	0.11	0.09	1.6	1.2
		被着体汚染 / 上昇率	無 / 275%	無 / 180%	無 / 111%	無 / 167%
	ボールタック		<2			
80°C保持力		ズレなし				

(上記内容は測定値であり、規格を示すものではありません。)

- ・【P-7360A, B】は微粘着タイプ、【P-7361A, B】は弱粘着タイプのバイオマス粘着剤です。
- ・【P-7360A, B】、【P-7361A, B】は、耐熱試験後の粘着力上昇率が低く、糊残りがありません。
- ・硬化剤添加量を変更することにより、粘着力を調整することが可能です。
- ・用途や要求性能に応じて、粘着剤の組成やバイオマス度をカスタマイズすることも可能です。

**バイオマス度算出方法**

硬化剤添加量

粘着物性測定方法

粘着シート構成

耐熱性試験構成

粘着力測定条件

被着体

被着体汚染確認方法

粘着力上昇率

ボールタック

保持力

粘着剤固形分に対して含まれる植物由来炭素の質量

粘着剤液100部に対して添加(有姿)

エージング条件

50°C×7日間

JIS Z-0237に準拠 (測定温度/湿度: 23°C/50%)

<基材> コロナ処理PETフィルム25μm / <粘着剤> 15μm / <セパレーター> PETフィルム38μm

<基材> コロナ処理PETフィルム25μm / <粘着剤> 15μm / <被着体> SUS430BA、ガラス

(1) 貼り付け20分後の粘着力を180°引きはがし法(300mm/min)で測定 (2) 150°C環境下1時間後の粘着力を測定

SUS430BA、ガラス

粘着力(2)測定後、被着体表面を目視で確認 (無: 汚染無、有: 汚染、糊残り等)

1 → 2N/25mmの時、200%上昇

J. Dow法、助走100 mm

80°C・1 kg荷重・1時間、試料面積25×25 mm、被着体:SUS304



大同化成工業 株式会社  
<http://www.daido-chem.co.jp>

本社 大阪市西淀川区竹島4丁目4-28  
 TEL. 06(6471)7755(代)